

令和4年度

学校評価表

(中間評価 ・ 最終評価)

東広島市立高美が丘中学校

<p>学校教育目標</p>	<p>「未来へ挑戦する心豊かな生徒の育成」 ～自分の未来へ 地域の未来へ 日本の未来へ 世界の未来へ 地球の未来への挑戦～</p>	<p>経営理念</p>	<p>生徒・保護者そして地域との信頼関係を基盤とし、地域とともにこれからの時代を担う生徒の育成をする学校～学びたい 学びたい やりがいのある学校～ ・生徒の主体的な学びを伸ばす学校・思いやりと感謝の気持ちを育てる学校 ・組織的、協同的に取り組む学校・保護者、地域に信頼される学校</p>
---------------	---	-------------	---

評価計画				自己評価					学校関係者評価 (学校運営協議会による評価)		改善方針			
項目	重点	中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための方策	評価項目	目標値	達成値		達成度	評価	結果と課題の分析	評価	コメント	改善方針
							9月	2月						
学習指導	1	○「主体的な学び」を推進し、思考力・表現力を高める生徒の育成 (主体性・表現力)「課題発見・解決学習」を手立てとして	自分から進んで「学び」に向かう生徒の育成	・各授業で、主体的な学びを推進する。 ・家庭での自主学習を計画的に実行させる。	生徒学習意識調査 ・家庭学習時間1日1時間以上90%	90%	92.6%	82.8%	92%	3	全体的に授業以外の自主学習や読書等に取り組む時間は1時間以上は取れている。自主学習を家庭で実施していない生徒が増えていた。学習の習慣化が図られていない生徒が固定化していることが課題である。継続して生活学習メニューの学習の充実、読書週間の読書の取組等、生徒全員にも個別にも目標を持たせ、学習意欲の向上を図っていく。	B	縦割り学習や表現の時間を増やすなどよく工夫しながら推進されている。	表現力を高めるために具体的に学習態様をさらに工夫して欲しい。
			自分の意見を表現できる生徒の育成	・各授業で、生徒が意見を表現できる場を工夫して取組を行う。	・教職員意識調査「授業では、生徒が表現できる場を設定している。」単元に1回以上100% ・生徒学習意識調査「授業では、自分の考えを発表している。」肯定的評価90%以上	100% 81.3% 92.9% 90% 70.6% 84.8% 94.2%	2 3	生徒は、他者との考えの交流の重要性を理解し、表現したい気持ちは持っている。生徒アンケートでは達成値(学年差(1年96.3%2年50.0%3年78.8%))が表れた。授業で実施する場を設け、表現に必要な知識技能を定着させ、表現方法のモデル提示するとともに、活発な意見交流ができる雰囲気づくりに取り組む。	B	達成度が非常に高く、学習活動における表現活動の位置づけを重視して教育活動を推進していることが分かる。	継続して取り組んで欲しい。			
			自分で積極的に情報機器を活用できる生徒の育成	・情報機器を利用して、情報収集・選択や表現活動を行う。	・教職員意識調査「ICTを活用した授業を行っている。」単元に1回以上100% ・生徒学習意識調査「ICTを活用して調べたり、まとめている」肯定的評価90%以上	100% 56.3% 92.9% 90% 56% 92.9% 99.2%	1 3	タブレットを使った学習や、リモート学習等のICT機器の活用場面が増えた。前期は教職員に使用への抵抗が伺えたが、後期はICT機器の活用を模索し授業で使用する機会を増やすことができた。さらに、生徒のICT機器活用スキルを上げるように指導する場を増やすとともに、教師のICT活用場面を精選し、効果的な活用ができるように単元構成を工夫していく。	B	先生方が工夫してあらゆる場面でICTを取り入れた活動を展開されていて良いと思う。	準備に時間をかけすぎず先生方に負担がかからないようにして欲しい。			
生徒指導	2	○これからの時代に生きる基盤として、思いやりや行動力を持った生徒の育成(社会性・協調性)「寄り添い・かかわりきる生徒指導」を手立てとして	「生活三訓」を意識して生活できる生徒の育成	・生徒会活動・部活動を軸とした自主的な取組を推進する。	・生徒生活意識調査「私は、生活三訓を意識して行動している。」肯定的評価90%以上	90%	94.2%	86.9%	96.5%	3	「あいさつ」に関しては、学校全体の取組「あいさつ運動、委員会活動」を通して、意識の高まりが見られた。一方で、生活三訓のうち「整理整頓」に課題がある。生徒が感じている難しさを理解、把握し、具体的な取組を考え、改善を図りたい。どの項目についても高いレベルでの定着を目指す。	A	あいさつをする生徒が多くなり、成果を上げている。	継続して取り組んで欲しい。
			自分の役割を意識して行動できる生徒の育成	・縦割り集団による委員会活動や部活動の充実を図り、行事や大会での成功体験を基に生徒の自主性を育成する。	・生徒生活意識調査「私は、自分の役割を意識して行動している。」肯定的評価90%以上	90%	95.7%	93.4%	103.8%	4	行事を中核とした取組により、一定の成果が見られた。(今年度は、縦割りでの観戦大会も実施)9月と10月の比較では2.9ポイント増加の減少が見られ、これは質問項目に対する生徒の意欲や努力の高まりや認知能力の高まりと見える。行事と日々の学習のつながりや、学習活動、委員会活動のめがけを工夫することで成果が期待できる。	A	縦割り集団による活動は非常に高い教育効果を上げている。さらに中中が連携してことも主体的に活動する形態を伸ばして欲しい。	継続して発展させて欲しい。
			自他ともに大切にできる生徒の育成	・学校生活の中で長所を見つけ伝え合う場を設ける。 ・生徒の関わり合いの場を授業・部活・委員会活動の中で意識的に設定する。	・生徒生活意識調査「私は、自他を大切にし、思いやりを持って行動している。」肯定的評価90%以上 「SSRを活用して、不登校生徒6人以上」	90% 96.6% 97.6% 108.4% 6人 90.0% 5人 7人	4 3	・教育活動の中で、縦割り、学年、クラスでメッセージを伝え合うこと、教師による確づけ、促し姿を具体的に共有することを意識して取り組んできた成果であると考える。今年度も個別の取組を通して、思いやりのある生徒の育成を進め、不登校生徒7人、不登校理由が多様化するなか、生徒にとっては「最後まで話を聞いてくれる人がある」という信頼感が大切な点と考える。生徒に寄り添い、SSRを活用しながら不登校生徒支援に取り組む。	B	部活動は現在、中学校で多くの部活が指導員やコーチが入って実施しているため、地域移行は弾力的に行なって欲しい。	部活動支援員の必要が出てきたら協議会で考えていきたい。			
信頼される学校	3	○「学びたい、学ばせたい やりがいのある学校」づくり(学校組織の活性化、小学校・地域との連携・協働)「地域づくりの要となる学校」の推進を手立てとして	組織的な学校運営体制の確立と働き方改革を推進する学校づくり	・各主任が課題や情報を共有し、有機的・機能的な取組を推進する。 ・部活動指導方針の徹底、業務改善の推進を図る。	・教職員意識調査「高美中の教職員は、各種取組において組織的に動いている」100%、「業務改善を前後期1回以上行う」100%以上 ・入退校記録「時間外勤務が月80時間を超える教員」0人	100% 93.8% 93.8% 93.8% 100% 1人 1人 0人	3 3 4	どの項目も目標値に達成されている。来年度は、入退校記録「時間外勤務が月45時間を超える教員」5人を目指す。	A	教育活動の準備等にかかる時間や負担がどれほどかかっているか心配である。	こどもにしっかりかかわるように先生がまず十分休養をとって指導に当たって欲しい。			
			コミュニティスクールによる学校運営が活性化する学校づくり	学校運営協議会が推進する「あいさつロード」を定着させるために、生徒・保護者・地域が参加するあいさつ運動の取組の充実を図る。	・「学校において、毎週月曜日に挨拶運動を行う」100%	100% 100% 100% 100%	3	生徒主体で1月に部活動単位での挨拶運動を行った。来年度は、生徒生活意識調査で「私は、『おはようございます。』などの挨拶をきちんとしています。」肯定的評価90%以上を目指す。	A	あいさつロードの取組が定着してきたと思う。	継続・発展させて欲しい。			
			「学校緑化活動」を発展・継続させる学校づくり	・学校緑化活動の年間を見直し、計画的に推進する。	・生徒・保護者・教職員意識調査「私は、積極的に学校緑化活動に参加した。」「学校は、積極的に学校緑化活動を行っている。」肯定的評価	90% 90% 90% 90% 90.8% 71.4% 87.1% 96.8% 87.5% 92.5% 102.8%	4 3 4	今年度の新たな取組として、地域の協力の力で、単列りや認定を行うことができた。今年度も新花壇設置などができ、地域の方に愛を贈ることでできた。来年度は、保護者の目標をなしにする。	B	校内環境整備に関して、コミュニティスクール推進員に負担がかかることがないようにPTA等関わっていききたい。	要望や業務担当を学校で整理して協議会に上げて欲しい。			
			小・中9年間の学びと育ちを充実させる学校づくり	小・中9年間の学びと育ちを充実させる学校づくり	・小・中学校間連携年間10回以上	10回以上 5回 10回	100% 100%	3	小中連携教育推進委員会2回、運営協議会事前協議2回、特別支援教育1回の連携を行った。中学3年生、小学4年生であいさつロード清掃を行うことができた。	A	小中連携を密に行っていて良い。	今後も連携を深めて欲しい。		

※目標の精選と重点化を行い、重点の項に「1」「2」「3」で表示する。

- 4 達成度>100%
- 3 90%≤達成度≤100%
- 2 80%≤達成度<90%
- 1 達成度<80%

- 自己評価
- 4...目標を上回って達成
 - 3...目標どおりに達成
 - 2...目標をやや下回って達成
 - 1...目標をかかなり下回って達成

- 学校関係者評価(学校運営協議会による評価)
- A...とても適切である
 - B...概ね適切である
 - C...あまり適切でない
 - D...全く適切でない